

## 公 民

### 1 学習指導及び学習評価の改善・充実

#### (1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

「社会に開かれた教育課程」を掲げる学習指導要領においては、平成20、21年改訂の学習指導要領における小・中・高等学校を通じた社会科、地理歴史科、公民科の成果と課題を踏まえ、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ることにより、次の資質・能力を育成することが求められている。

【平成20、21年改訂の学習指導要領における小・中・高等学校を通じた社会科、地理歴史科、公民科の成果と課題、及び今後、育成することが求められる資質・能力】	
成果	○社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置き、改善が目指されてきた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成が不十分</li> <li>●資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分</li> <li>●課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業の実施が不十分</li> </ul>
育成することが求められる資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力</li> <li>○自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力</li> <li>○持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度</li> </ul>

また、指導計画の作成に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ることが大切である。この社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動では「社会の変化に主体的に対応できる力」や「自ら学ぶ意欲や課題を見だし追究する力」を養うことが重要となることから、次に、こうした探究的な学習を進める際のポイント及び留意事項を示す。

ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>①どのような力をつけさせるのか、ゴールを明確化する。</li> <li>②探究の過程を通じて、対話によって生徒の主体性と論理的思考力を磨く。</li> <li>③地域社会との関わりを探究の中に位置付ける。</li> </ul>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通してどのような力をつけるのか、今日の到達点はどのような姿なのか、長期的・短期的なねらいを絞って、ゴールを生徒に示しながら進める。</li> <li>・ねらいやゴールを作成する際は、学校教育目標やスクール・ミッション、グラデュエーション・ポリシーやカリキュラム・ポリシー等のスクール・ポリシーを踏まえる。</li> </ul> </li> <li>②                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は、できるだけ指示役ではなく聞き役に回ることを意識する。</li> <li>・教師が対話を通して質問することで、例えば「公共」で求められる論拠をもって表現する力を育成することにつながる。</li> </ul> </li> <li>③                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいを明確にした上で、それぞれ関係する専門家や関係諸機関等との円滑な連携・協働を図る。</li> <li>・公民科においては、例えば模擬裁判における裁判所や弁護士事務所等との連携が考えられる。</li> </ul> </li> </ul>

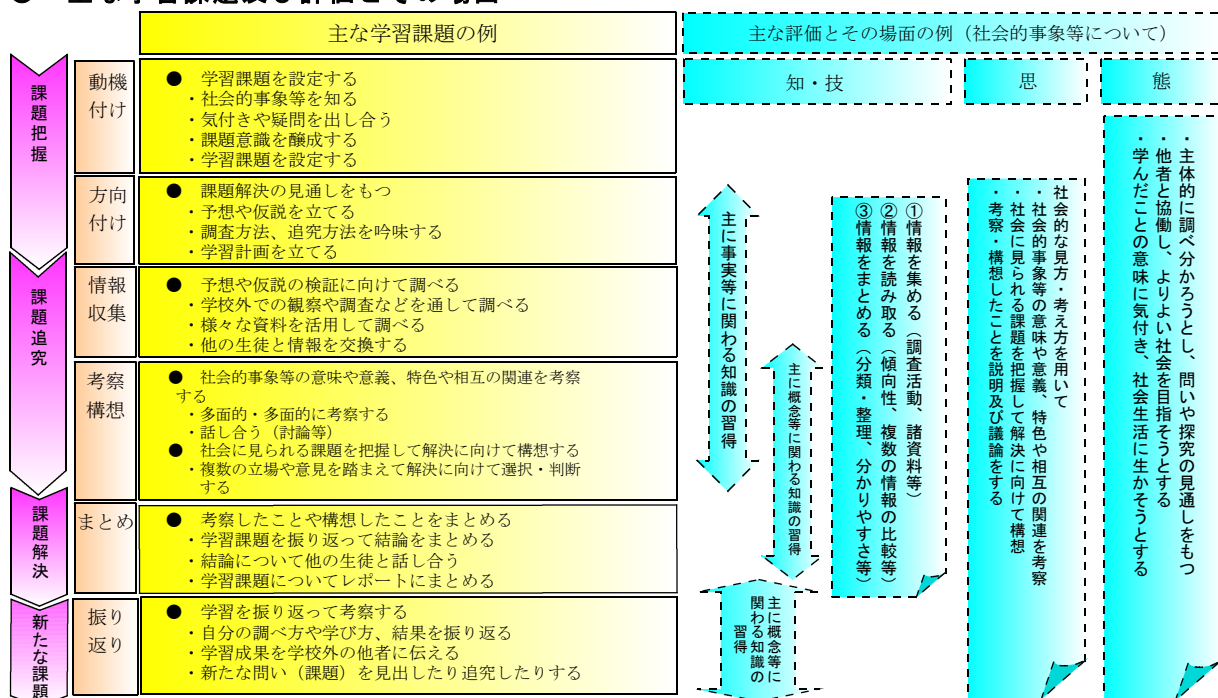
## (2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

公民科の目標として、「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること」が掲げられている。このうち、「社会的な見方・考え方」とは、社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」である。また、「社会的な見方・考え方を働かせる」とは、「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより、生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことである。

このことを踏まえ、公民科における探究的な学習の評価においては、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切である。「指導に生かす評価」を充実させるためには、日々の授業の中で生徒の学習状況を把握し、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが重要であり、評価方法の工夫としては、学習支援ソフトや表計算ソフト等のICTの効果的な活用が挙げられる。

なお、学習評価における「記録に残す評価」の留意点として、年間を通じて3観点をバランスよく評価する必要がある。また、毎回の授業で全ての学びが実現されるものではないことから、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面、グループなどで対話する場面及び生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、適切に評価場面を設定する必要がある。

### ○ 主な学習課題及び評価とその場面



（平成28年6月13日教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ参考資料を基に作成）

## 2 指導と評価の計画例

### (1) 公共の計画例「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」

#### ア 単元の目標

持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、表現する。
- ・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

#### イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

#### ウ 単元の指導と評価の計画（10時間）

時間 (次)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
【1時間】 第1次	<p>【単元を貫く問い】(個人で設定した問い)</p> <p>【問い】持続可能な社会づくりを担う主体となることに向け、私たちが解決に取り組むべき現代の地域社会における諸課題には、どのようなものがあるだろうか。</p> <p>自分が設定した問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりする等、解決の見通しを立てる。</p>		●	
【8時間】 第2次	<p>【問い】現代の地域社会における諸課題について、どのように解決していくことができるだろうか。</p> <p>文献やインターネットによる調査や現地調査、インタビュー等を通して情報を収集、整理し、自ら設定した問いについて、解決策等を事実を基に考察、構想し、提言案としてまとめる。</p>		●	●
【1時間】 第3次	<p>【単元を貫く問い】(個人で設定した問い)</p> <p>グループやクラス内での発表を踏まえ、自分の提言案を修正し、完成させる。</p> <p>個人で単元の学習を振り返る。</p>		○	○

授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫 ※才参照

これまでの大項目A・Bで学んだ内容(ポートフォリオ)を活用しながら、自分が探究したい問いを設定し、その解決に向けた見通しを立てる。

現代の地域社会の課題について、現地調査やインタビュー等を通して情報を収集、整理させる際、実社会とのつながりを意識させる。

単元を貫く問いに対する答えを考察し、新たに追加した内容や疑問点などにつながった学習活動を見いだす。

エ 学習指導案（1時間目／10時間中）

○ 本時の目標

- ・これまでの「公共」の学習で学んできたことを振り返り、ポートフォリオを参考に疑問や印象に残ったことから現代の地域社会における諸課題を考察、構想することができる。
- ・現代の地域社会における諸課題の解決に向け、自分が探究する問いを設定し、問いの解決に向けた見通しを立てることができる。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	【問い】持続可能な社会づくりを担う主体となることに向け、私たちが解決に取り組むべき現代の地域社会における諸課題にはどのようなものがあるだろうか。	
展開	・大項目A・Bのポートフォリオに記入した疑問や印象に残ったことをフィードバックしながら、現代の地域社会の諸課題を考察する。	・大項目A・Bの既習事項を踏まえ、生徒自身が探究してみたいと思う問いを設定できるように、地域の現状など、生徒にとって身近な視点から考えさせる。
まとめ	・諸課題の解決に向け、自分が探究する問いを設定し、その解決に向けた見通しを立てる。	・これまでの学習と同様に、自ら設定した単元を貫く問いに対する予想を立てさせ、課題の解決への見通しを立てさせる。

・大項目A・Bで身に付けた見方・考え方や学び方を踏まえ、生徒自ら探究してみたいと思う問いを設定させるために、表計算ソフトを活用する。  
 ・その際、本時の問いに対する予想・仮説、疑問・質問、単元を貫く問いに対するまとめ等を手がかりに地域社会における諸課題を解決するための方策を検討する。

・生徒自らが設定した問い(例)  
 「札幌市と他の地方の経済格差は今後どうなるのか、その解決策は何だろうか」「災害に強いまちづくりを実現するために、地域住民ができることは何だろうか」「新たなスマート農業（スマートアグリ）は北海道の農業や酪農をどのように変えることができるのか」「地域で働く外国人との共生を図るために必要なことは何だろうか」など、生徒の身近な視点から諸課題を考察できるように問いの設定を支援する。

■指導の留意点

問いの設定が困難である生徒への手立てとして、ポートフォリオへの教師からのコメントや、ICTを用いた生徒同士の問いの共有がヒントにつながることを助言することが考えられる。

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫  
 (評価時期、評価方法、評価結果のフィードバック)



ポートフォリオの例は、こちらのQRコードを読み取ってください。

◎ ポートフォリオ（表計算ソフト）

毎時間の学習記録（スタディ・ログ）を表計算ソフトにポートフォリオとして継続的に保存することで、次のようなことが期待できる。

- ① 本時の問いに対する予想・仮説、疑問・質問を記入することで探究的な学習に連続性を持たせることができるため、生徒の学習改善につなげることができる。
- ② 大項目Cで生徒自らが問いを設定する際に、これまで身に付けた見方・考え方や学び方を振り返るために活用することができる。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。



(2) 倫理の計画例「B 現代の諸課題と倫理(1)自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」

ア 単元の目標

自然や科学技術との関わりにおいて、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。
- ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。</li> </ul>

ウ 単元の指導と評価の計画（10時間）

時間 (次)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
【1時間】 第1次	<p>【単元を貫く問い】科学技術の活用をめぐる倫理的課題について、どのように選択・判断をしていけばよいか。</p> <p>【問い】人工知能（AI）・ロボット技術の活用をめぐってどのような倫理的課題が考えられるか。</p> <p>人工知能（AI）・ロボット技術の活用における倫理的課題を見いだす。</p>		●	
【2時間】 第2次	<p>【問い】AIに導かれる人生は幸福か。</p> <p>倫理における探究的な学習の要点を理解する。</p>		●	
【6時間】 第3次	<p>【小レポートを作成しよう】</p> <p>科学技術の活用に関わる倫理的課題の解決に向けて、倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究する課題の設定、資料の収集と読み取り</li> <li>・中間発表、グループ対話、小レポートの作成</li> <li>・最終発表会と発表内容に関するグループ対話</li> </ul>		●	
【1時間】 第4次	<p>【学習を振り返る小レポートの作成】</p> <p>単元のはじめに考えた【単元を貫く問い】に対する自身の考えと、本時における考えとを比較し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返るワークシートの作成</li> </ul>			○

ICTを効果的に活用した授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫 ※オ（ア）

実社会でのAIの活用事例を考察させる。

ICTを効果的に活用した授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫 ※オ

エ 学習指導案（4時間目／10時間中）

○ 本時の目標

- ・近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活と社会の在り方について思索する。
- ・高度な情報通信技術やロボット技術などの先端科学技術の特質及びその進展がもたらす人間や社会に対する影響について考える。
- ・人間にとって科学技術とは何か、またそれをどのように利用していけばよいかといった視点から倫理的課題を見いだし、探究する。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点	
導入	<p>【問い】科学技術の活用に関わる倫理的課題について、どのように選択・判断をしていけばよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究する課題の設定、資料の収集・読み取り</li> </ul>	<p>科学技術の活用をめぐる倫理的課題について、自らの関心や問題意識と関わらせながら課題を設定し、手掛かりとなる先哲を見いだすなど探究する学習の見通しを立てている。</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人またはグループで関心のあるテーマについてキーワードを自由に挙げる。</li> <li>・テーマに関する資料を収集して読み取る。</li> <li>・問いの形で探究する課題を設定する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げる課題について論じた先哲の文章など、倫理的な観点を明確にする資料を含むようにする。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人またはグループで問いを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子やこれまでの準備の様子を総括し、全体に向けて評価できる点を知らせ、今後の学習につながるよう配慮する。</li> </ul>	<p>次の時間で設定した課題を基に中間発表、グループ対話を実施する。</p>

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫（評価時期、評価方法、評価結果のフィードバック）

○ Google Jamboardやプレゼンテーションソフトを共有して同時編集

<p>【第1次】</p> <p>①科学技術に関わる諸課題の中で、倫理的な課題と考えられるものを挙げてみよう。</p> <p>②上述した倫理的課題について選択・判断する際に、参考となりそうな先哲の考え方を挙げてみよう。</p> <p>③本時の中で、参考になった友達の意見や考え方を挙げてみよう。</p>	<p>■評価規準</p> <p>「科学技術に関わる諸課題の中で倫理的課題を見いだし、その倫理的課題について選択・判断する際に参考になりそうな先哲やその考え方を見いだしている。」</p>	<p>【第3次】</p> <p>①科学技術に関わる諸課題と倫理の中で探究してみたい倫理的課題は何か。その理由も書こう。</p> <p>②上述した倫理的課題について選択・判断する際に、手掛かりとしたい先哲の考え方と、その理由も書こう。</p> <p>③課題探究に向けて、今後の学習で必要なことを列挙してみよう。</p>	<p>■評価規準</p> <p>「自身が探究したい課題について探究してみたい理由や、自身と社会との関わりについて記述できている」「倫理的課題について選択・判断する際に手掛かりとしたい先哲と、なぜその先哲を手掛かりとしたいのかについて記述できている。」</p>
<p>■指導の留意点</p> <p>探究したい理由や参考になりそうな先哲を挙げるができない生徒に対しては、これまでの学習を振り返らせ、これまでのような「問い」を考えてきたかや、その「問い」と関連する先哲は誰であったかなどを尋ねることなどが考えられる。</p>			

プレゼンテーションソフトを活用し、1枚のスライドに1時間の振り返り等を記録し、共有フォルダへ保存しておくことなどICTを活用することで、生徒にとっては、これまで蓄積してきたスライドを一覧できるため、参照したいときにいつでも振り返ることができ、教師にとっては、生徒の学習状況を丁寧に見取ることが可能となる。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

(3) 政治・経済の計画例「A 現代日本における政治・経済の諸課題 (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

ア 単元の目標

社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・ 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。
- ・ 現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代日本における政治・経済の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

ウ 単元の指導と評価の計画 (15時間)

時間 (次)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 (1時間)	<p>【単元を貫く問い】少子高齢化、情報化、経済のグローバル化などの社会の変化の中で、日本経済が新しい産業構造へ向かうためには、どのような取組が必要だろうか。</p> <p>【問い】現在の日本でみられる産業構造の変化に対して、中小企業はどのような対応をせまられているのだろうか。</p> <p>中小企業を巡る日本の現在の状況を踏まえ、これからの中小企業の在り方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1) 現代の日本の政治・経済における経済分野で学習した内容をもとに、『中小企業白書』等の資料を活用して情報を収集し、まとめる。</li> </ul>		●	

<p>第2次 (4時間)</p>	<p>【問い】日本で成長してきたベンチャー企業や中小企業を調べ、その発展・成長要因を調べてみよう。</p> <p>企業としての成長過程とそれを可能にした要因を、政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察する。</p> <p>・班で行った調査の結果をプレゼンテーションソフトにまとめ発表し、生徒同士で相互評価した後、自己評価を行う。</p>	<p>ICTを効果的に活用した授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫 ※オ(ア)</p>
<p>第3次 (8時間)</p>	<p>【問い】地域の社会問題に取り組むソーシャルビジネスの起業の企画案を構想してみよう。</p> <p>地域の社会問題を的確に把握した上で、身近な社会における経済活動の具体的な取組を構想し、探究する。</p> <p>・ソーシャルビジネスの実例を参考に、自分の居住する地域の社会問題を把握し、その問題を解決するためにどのようなビジネスを展開するか構想し、起業の計画案を学習支援ソフト上でまとめる。</p> <p>・各班の起業の計画案を閲覧し、投資するか否か決定する学習を行い、ソーシャルビジネスの在り方について考察を深める。</p>	<p>ICTを効果的に活用した授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫 ※オ(イ)</p> <p>社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ることは、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決する態度を養う上でも大切である。</p>
<p>第4次 (2時間)</p>	<p>【単元を貫く問い】少子高齢化、情報化、経済のグローバル化などの社会の変化の中で、日本経済が新しい産業構造へ向かうためには、どのような取組が必要だろうか。</p> <p>・第2・3次の調査内容を踏まえ、中小企業や企業に対する支援についてどのような取組を行うことが適切か、自分の考えを論述する。</p>	<p>第1～3次の探究を通して、取り上げた課題（産業構造の変化と起業）の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述できたか、単元の導入で立てた探究の見通しについて、どの程度達成できたのかについて振り返りを行う。</p>

エ 学習指導案 (12時間目/15時間中)

○ 本時の目標

- ・各班が構想したソーシャルビジネスの起業の企画案に対して投資するか否かを決定する学習を通して、ソーシャルビジネスの在り方について考察を深める。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>【問い①】投資先を決定する際の判断材料としては、どのようなものがあるだろうか。</p> <p>・これまでの学習を踏まえ企業に出資する際の判断材料にはどのようなものがあるかを確認する。</p>	
展開	<p>【問い②】他の班が構想した起業の企画案を見て、どの企業に投資するか判断しよう。</p> <p>・他の班が作成した学習支援ソフト上の企業の計画書を閲覧し、どの会社に投資するか決定する。</p> <p>・投資先を決定したら、その理由と合わせ学習支援ソフト上に投稿する。</p>	<p>・投資先の判断にあたっては、第2次における、日本で成長してきたベンチャー企業や中小企業の成長過程も参考にできることに気付かせる。</p>

問い①で出された判断材料をダイヤモンドランキングにより順序付けることで、投資先を判断する際の指針となる。

■評価規準  
「よりよい社会の構築に企業がどのように貢献できるかについての自分の考えを基に、自らの判断について立場や根拠を明確にして論理的に論述できている。」



まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果を確認し、自分の班に投資が行われた（もしくは行われなかった）理由を確認し、次時に行う起業の計画案の修正に向けて構想を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が投稿した段階で結果を発表するとともに、その結果をまとめたスプレッドシートを配信する。</li> </ul>
-----	---	---

■指導の留意点

- 生徒への支援の手立てとして、提出物の添削指導やポートフォリオへのコメントが考えられる。また、他の班の内容や他の班に寄せられたコメントとの違いを比較するよう助言することが考えられる。
- 評価の際には、学習支援ソフト上に公開された表計算ソフトによるポートフォリオ等を活用する。

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫（評価時期、評価方法、評価結果のフィードバック）

(ア) 表計算ソフトの活用による教師からのフィードバック

表計算ソフトを共有設定にすることで、生徒が同時編集（入力）できるようになる。これにより入力内容を生徒間で共有するとともに、教師が分析し学習状況を把握することができる。あらかじめ教師のコメント欄を設けておけば、授業のたびに教師がコメントを記入することでフィードバックでき、授業改善・学習評価等に活用できる。

(イ) Googleフォームの活用による生徒のコメントの収集および評価

Googleフォームへの回答は、リアルタイムで表計算ソフトに反映される。したがって、生徒同士の相互評価をGoogleフォームで行えば入力内容はすぐに集約できるとともに、その表計算ソフトを配信することで、生徒との内容の共有が可能となる。

また、生徒が入力した文章からテキストマイニングによる抽出を行い、生徒の学習状況を効率的に把握することも考えられる。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

# Topic

## 「主権者教育」の充実①～文部科学省「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」北海道登別青嶺高等学校「公民科」の取組（研究2年目）～

主権者教育を推進する上では、正解が一つに定まらない課題に対して、生徒が、異なる意見を整理して議論を交わす中で、納得解を見いだしながら合意形成を図っていく過程が重要となる。

北海道登別青嶺高等学校では、令和3年度からの2年間、公民科を中心に本研究を行った。ここでは、本校で取り組んでいる新科目「公共」における主権者教育の実践例の一部を示す。

### 【研究主題】

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

### 【主な実践の概要】

#### ◆ 実践事例1「少年法の厳罰化」（特定少年法の実名報道）（大項目B「主として法に関わる事項」）

- 学習内容  
少年法の改正について、特に特定少年の実名報道の是非について考察
- 単元を貫く問い  
「法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて、裁判で公平・公正に判断するために何が必要か」
- 授業のねらい  
少年法の厳罰化について、幸福・正義・公正などに着目して考察し、法の適切さを考える視点を身に付ける。
- 授業の問い  
「少年法改正による特定少年（18歳・19歳）の実名報道をどう捉えるか」
- 授業の概要  
・弁護士との協働により研究授業を実施した。様々な架空の事件を題材にし、立場や罪の重さなど多面的・多角的な視点で特定少年の実名報道の是非について考察した。  
・実施に当たり、専門家や関係諸機関がもつ識見は、生徒にとって具体的で分かりやすいものであるが、一義的な意見として生徒に伝わることのないよう配慮した。



#### ◆ 実践事例2「私たちと経済」（大項目B「主として経済に関わる事項」）

- 学習内容  
日本の産業構造の変化について、資料を基に読み取り、その要因を考察
- 単元を貫く問い  
「2050年の日本を担うのはどのような産業か」
- 授業のねらい  
・産業構造の高度化についての基本的な知識を身に付けるとともに、登別の産業ごとの従業員数・売上や産出額の変化についての情報を読み取り、技術革新は労働力不足を補う可能性があることに気付かせる。  
・各産業におけるAIの導入事例について情報を収集し、その技術を登別の各産業に取り入れると仮定し、登別らしさ・グローバル化・持続可能な社会の実現などの観点から評価する活動を通して、登別の産業を発展させるための視点を身に付けさせる。
- 授業の問い  
「登別の産業をどのように発展させられるか」
- 授業の概要  
・問いの考察に必要な情報を得るため、市役所と連携し、研究授業を実施した。地域経済分析システム「RESAS」を活用し、登別市の産業ごとの従業員数・売上の情報を読み取り、技術革新などの工夫によって売上を増加させている企業の事例を考察した。  
・考察した事例を登別市に導入することにより、「登別らしさが生まれるか」、その取組は「グローバル化と関わりがあるか」、「持続可能な社会に貢献しているか」などの観点からグループで評価することで、今後の日本や地域経済を支える産業・企業とはどのようなものか考察した。



### 【主な研究成果等】

- 地域の産業構造の変化を題材にした学習における問い（実践事例2）に対する仮説を比較してみると、単元の始めでは主観に基づく仮説が多かったものの、調査を通じて得られた事実やデータ、協議を通じて考察した「登別らしさが生まれるか」、「グローバル化と関わりがあるか」などの多面的・多角的な観点から仮説を立て直す生徒の姿がみられた。
- 関係諸機関との連携を通じて、より具体的な実社会の課題等の情報を得ることができたことで、生徒の興味・関心が高まり、自ら主体的に考える姿勢・態度の育成につながった。
- 生徒へのアンケート（20項目の意識調査）の結果

主 な 質 問 項 目	肯定的に回答した生徒の割合	
	1回目(5月)	2回目(2月)
公民科や家庭科の授業などで学習した現実の社会に関することは、将来の自分に役立つ。	77.8%	88.9%
政治に参加することは大切だと思う。	75.8%	88.9%

- 上記の質問項目への回答から、実社会について学ぶ意義を一層見いだすとともに、政治参加への意識や主権者としての自覚が高まったことが分かるため、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力の育成に一定の成果が得られた。

# Topic

## 「主権者教育」の充実②

～令和5年度公立高等学校第3学年公民科における新聞を活用した取組～

公民科においては、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすることが目標とされている。

ここでは、日本新聞販売協会北海道地区本部との連携により、生徒が新聞を活用して現代の諸課題を追究したり解決したりする学習活動に取り組んだ主権者教育の実践例を示す。

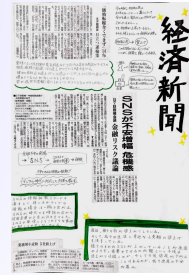
### 【札幌国際情報高校】「現代社会」

- 学習内容  
青年期と自己形成（「社会との関わり」～4紙比較でニュースキャスター＆解説委員になろう～）
- 授業の目標  
・学習を通じて、主体的に学ぶ態度や、学習した知識や概念と実社会での出来事を結び付けることにより、情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- 授業の問い  
「授業で学んだことが新聞にはどのように書かれているのか」
- 授業の概要  
・ミッションAとして、全生徒が新聞記事からニュースを選び、ニュース原稿と想定問答を作成した。  
・ミッションBでは、グループで役割（ニュースキャスター、解説委員、質問者、回答者）を分担し、各班が発表するニュースを基に、質疑応答を行った。  
・学習活動を通じて、多角的な視点を養うとともに、読解力や表現力等を身に付けた。



### 【苫小牧西高校】学校設定科目「経済研究」

- 学習内容  
ミニ経済新聞の作成及び発表
- 授業の目標  
・新聞を通じて、国内外の経済について理解するとともに、新聞記事に対する意見をまとめることで、多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付ける。  
・各班の新聞を読むことで、経済活動への興味・関心を高める。
- 授業の問い  
「私たちの生活に新聞はどのような役割を果たしているのだろうか」
- 授業の概要  
・班で日本及び世界の経済に関する新聞記事を選定し、その記事のまとめとして、「ミニ経済新聞」を作成することで、経済活動への理解を深めるとともに、興味・関心を高めた。



### 【旭川永嶺高校】「政治・経済」

- 学習内容  
現代社会の諸課題（地域経済をいかに活性化させるか）
- 授業の目標  
・現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりを新聞記事等の諸資料から読み取り、まとめる技能を身に付ける。  
・社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、課題の解決策を多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付ける。
- 授業の問い  
「現代の日本が抱える経済の課題とは何か。また、課題を解決するための具体的な手段は存在するか。」
- 授業の概要  
・統一地方選挙（旭川市議会議員選挙）の立候補者の政策に係る新聞記事から、生徒が着目した地域経済に関わる記事を選んだ。  
・選んだ記事について課題を設定し、課題を考察した。  
・学習活動を通じて、地域経済の活性化のために、有権者としてどのように地域社会に参画していくかを考察した。



### 【釧路北陽高校】学校設定科目「時事問題研究」

- 学習内容  
統一地方選挙（釧路市議会議員選挙）から読み解く選挙の課題と地方自治（現代民主政治の課題）
- 授業の目標  
・新聞記事から多くの情報をまとめるとともに、地方自治の課題について考察し、地方自治及び選挙への興味・関心を高める。  
・選挙の結果からその課題について、多面的・多角的に考察し、解決方法を提言することで、公正に判断する力と表現する力を身に付ける。
- 授業の問い  
「選挙は私たちの暮らしにどのような影響を及ぼすのだろうか」
- 授業の概要  
・新聞記事から釧路市議会議員選挙の立候補者の政策についてまとめ、立候補者比較表を作成するとともに、立候補者比較表を参考に模擬選挙を実施した。  
・模擬選挙の実施に当たっては、釧路市選挙管理委員会の助言を仰ぐなど、政治的中立の確保に留意して実施した。  
・選挙の課題（若者の投票率の低さなど）について原因を追及し、解決策を考察した。



### 【取組後の生徒の感想】

- 新聞記事から選挙の投票率が低いことに対する危機感を感じた。私たち一人一人が、日本の未来を担うという意識をもって、投票することの重要さを感じました。
- 地域や日本、世界で起こっている出来事は他人事という意識だったが、新聞を通して、身の回りの出来事が、地域や日本、世界につながっていることに気づき、自分事として考える意識が高まりました。
- 以前は新聞に書いてあることは、各社ともに大体同じだと思っていましたが、同じ出来事でも新聞社によってアプローチが異なり、様々な角度から考えることの重要性を感じました。また、各社の取り上げ方により、自分の見方も変わってくると感じました。